# 1軸配向Polyethleneの極点図解析

2019年09月16日 HelperTex Office

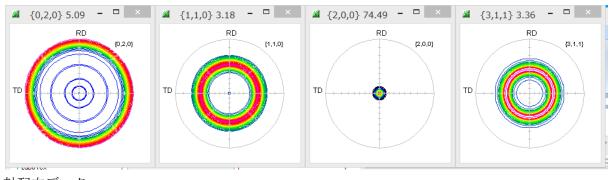
#### 概要

面配向材料をTD方向から測定すると、軸配向になるが、面配向に比べ、軸配向の解析は難しい。 理由として、極点図の場合、 $\alpha$ 方向の補正として、吸収、defocus、バックグランドの畳み込みがあり この分離が難しい。

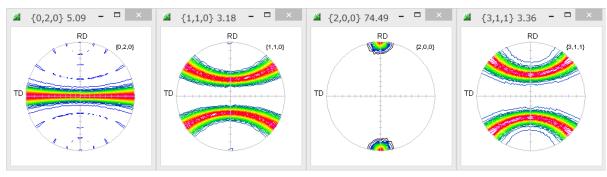
本資料では、Polythlene を例にシュミレーション後に実際の測定データに応用してみます。

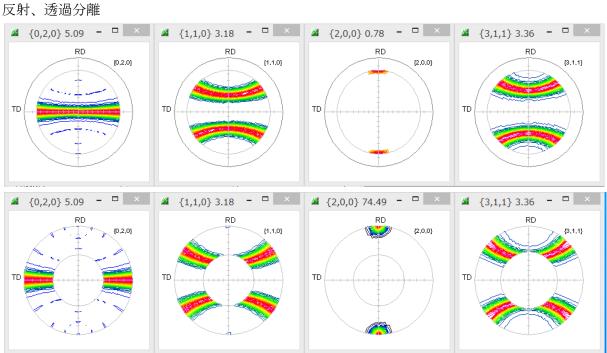
## シュミレーションに使う極点図

# 面配向データ

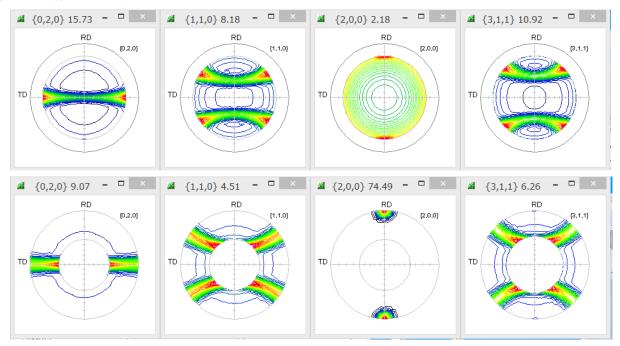


軸配向データ

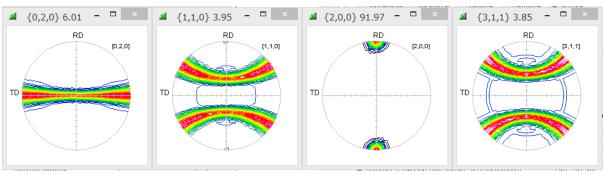




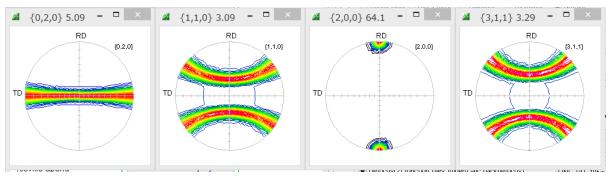
#### 吸収効果により測定される極点図



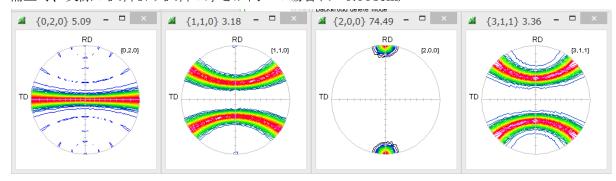
補正時、実際の試料より試料の厚さが厚い場合(t=0.008cm)



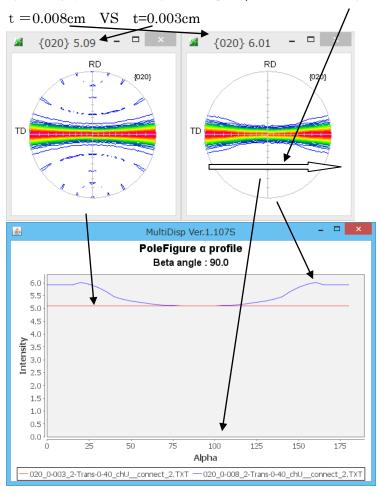
補正時、実際の試料より試料の厚さが薄い場合(t=0.0001cm)

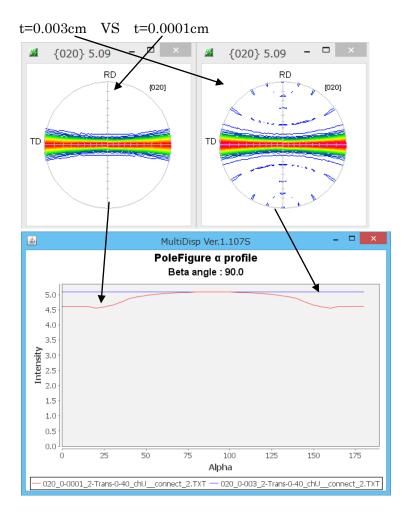


補正時、実際の試料より試料の厚さが同一の場合(t=0.003cm)



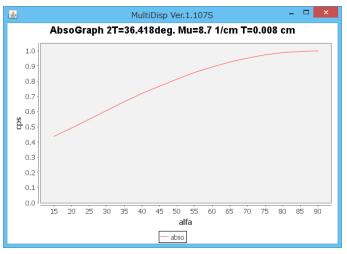
# $\{020\}$ 極点図プロファイル比較 $(\beta 90 -> 180 プロファイル)$

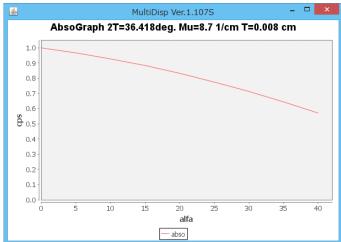




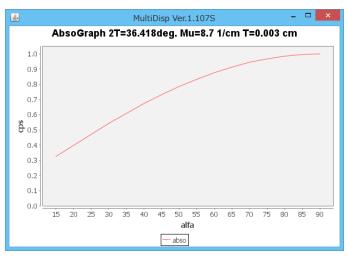
### 吸収補正量比較

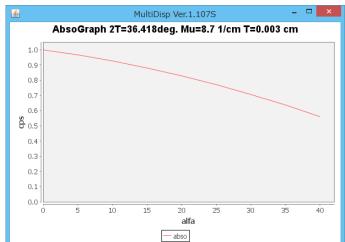
### t=0.008cm



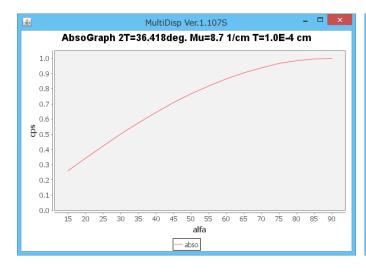


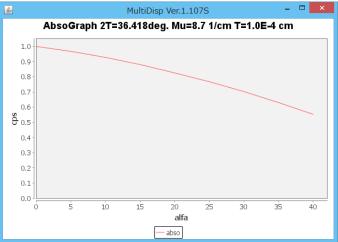
#### t=0.003cm



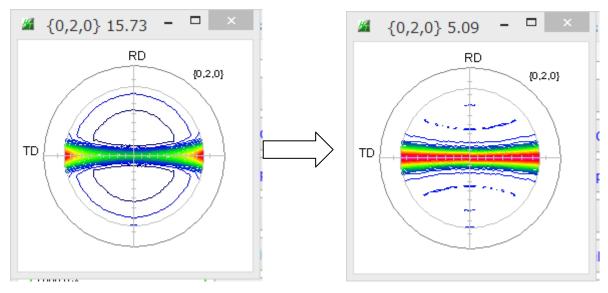


### t = 0.0001cm

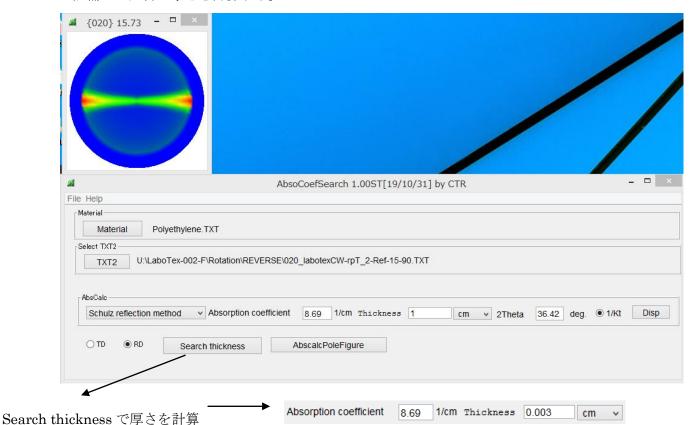




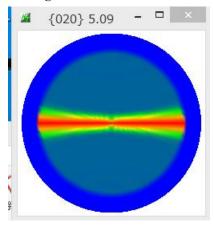
このように試料の厚さにより補正量が大きく変わります。 正確な値を入力してください。 軸配向材料の厚さを計算する。



上記補正の試料の厚さを計算する。



AbsCalcPoleFigure で補正ファイルが作成される。

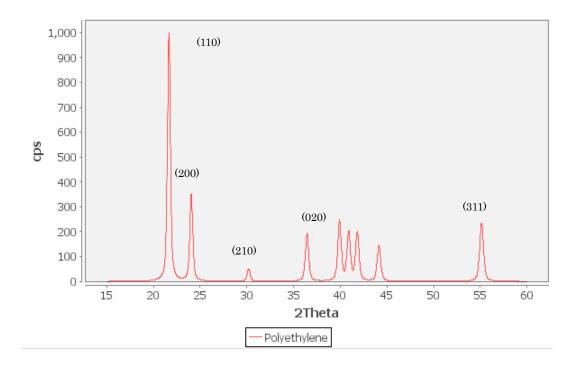


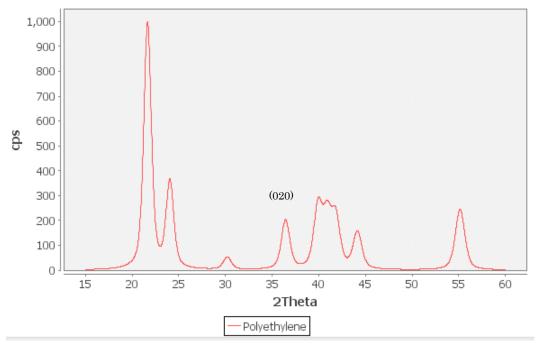
## defocus

高分子材料の場合、吸収と defocus が畳み込まれていると考えた場合 試料と同一材料による無配向試料による極点測定を用いた補正が考えられるが、この方法は 難しい。

## バックグランド

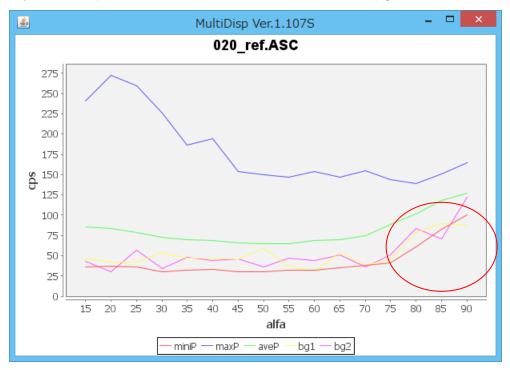
PEの場合





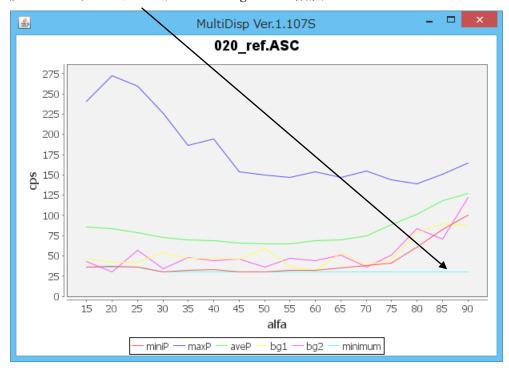
回折線の影響の少ない 2 θ 角度でバックグランドの測定を行うが、 測定時試料を煽って測定するため、回折線が広がりバックグランドに影響がでます。

# 又、極点図の中心バックグランドが大きくなる事があります。



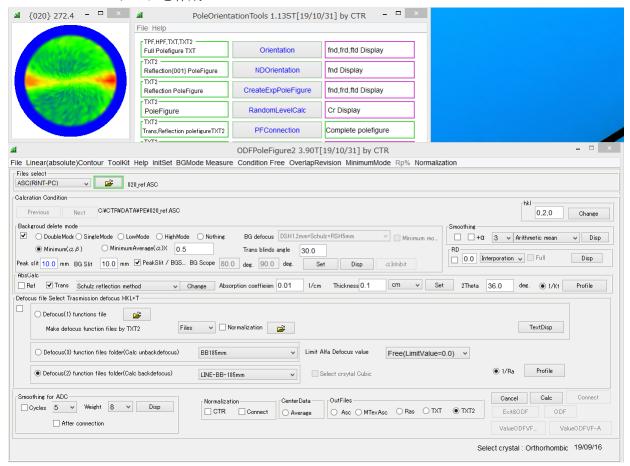
このような場合、修正しましょう。

修正したバックグランド(ODFPoleFigure2の機能)

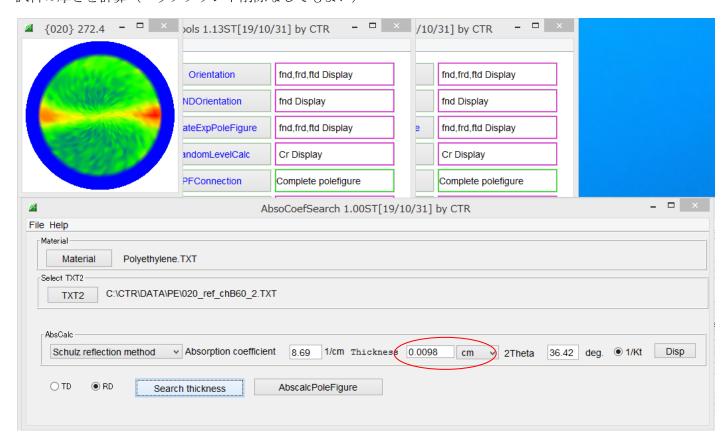


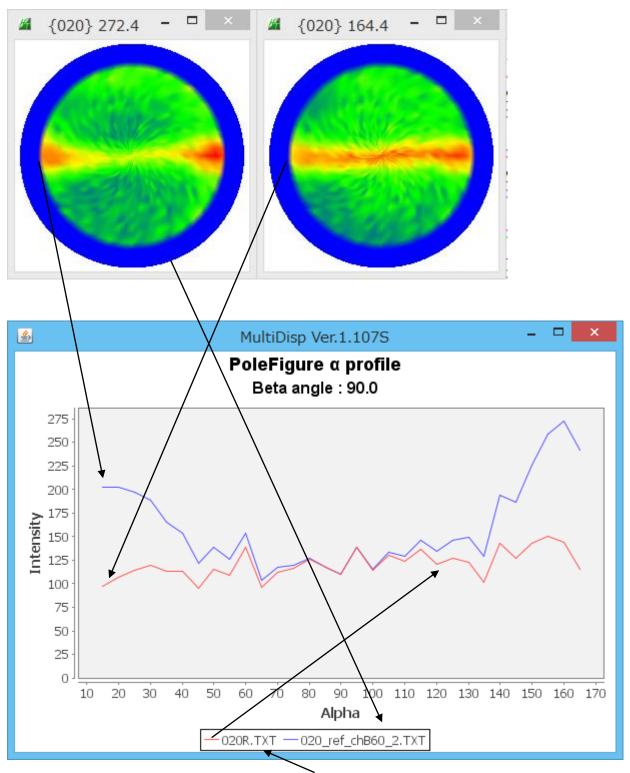
#### 実測データの場合

TXT2データを作成



試料の厚さを計算 (バックグランド削除なしでもよい)





計算された厚さ0.0098で軸配向らしい極点図になります。